

総務財政常任委員会 行政視察報告 5月12日(月)～14日(水)

- 熊本市山鹿市「やまがメイト」を活用した行政情報等の発信について
- 長崎県雲仙市「地熱資源の保護及び活用に関する条例について」
- 福岡県みやま市「エネルギーの地産地消について」

◎山鹿市 「やまがメイト」はスマートフォン等の端末から、地域情報を音声等で届ける市民向け（市外含む）コミュニケーションサービスである。機能は、市内で活動する団体の情報や、災害発生時等の情報をリアルタイムで確認でき、他に地区の代表者から情報の一斉送信ができること、お悔やみなど地域に密着した情報を得られることであった。本委員会において好事例の調査であったが、情報伝達の手段についてはこういった比較検討材料を調査しながら不



断の研究に努めていかなければならない。



◎みやま市 本委員会では、地熱資源を有する本市において、その資源がもたらす恩恵をいかに市民サービスとして還元できるかを重要なテーマとして調査活動をしている。当地は太陽光やゴミ焼却等の発電などを行っていたが、一般的な地域新電力とは少し手法の異なる地域貢献などの事例調査を行うことができた。



◎雲仙市 今回調査に及んだ条例は、地熱開発の乱立により状況の整理がつかない事態があった経緯から、地熱資源の保護と活用両面を定めた事例である。本市は地熱資源関係の条例等制定の検討に入

教育民生常任委員会 行政視察報告 5月12日(月)～13日(火)

- 新潟県見附市「スマートウェルネスみつけの取組について」
- 新潟県長岡市「部活動の地域移行について」

◎見附市 急激な少子高齢化と人口少によって進行する超高齢化・人口減社会を見据え、「健幸」を最重要に住みよいまちづくりを推進する先進地として見附市を視察した。面積は本市の約1/10ながら人口は同程度に保たれ、行政効率に優れたコンパクトシティとして機能しており、とりわけ公共交通の利便性向上策が行き届き、運動を「健幸ポイント」に連動させた仕組みで市民の参加意欲と満足度を高め、「スマートウェルネスみつけ事業」でも中核的役割を果たしている。一方で財政的な制約も指摘されるが、本市においては規模に合わせた旧市町村単位でのモデル事業実施の可能性を感じた。高齢化が進む本市でも、健康づくりと生きがい創出、医療費抑制など大いに参考となる視察であった。



◎長岡市 本市では、運動部3競技において休日の部活動地域移行が実施されている。今後は運動部5競技や文化部へ同様の枠組みを広げるべく、優良先進地を視察した。長岡市では、長岡市・長岡市教育委員会・(一社)長岡スポーツ協会・(財)長岡市芸術文化振興財団の4者が「地域クラブ活動推進に関する協定」を締結。指導者の育成、運営支援、コンプライアンス確保などを連携し進めていた。地域のスポーツ団体や文化団体と一体となった運営体制、外部指導者の配置・役割を明確化し、教員の負担軽減と専門性の向上が図られており、「部活動は学校だけのものではなく、地域全体で育てるもの」という強い意識を持つ行政主導で取り組まれていた。本市においても基本計画を踏まえた移行が進むよう委員会として注視していききたい。

